

## V35a ELT 情勢と活動報告

家 正則、秋田谷洋、青木和光、今西昌俊、臼田知史、高見英樹、佐々木敏由紀、高遠徳尚、山田亨 (国立天文台)

TMT, GMT, E-ELT を巡る状況をレビューし、国立天文台を中心として行った ELT 活動について報告する。

NSF は光 / 電波 / 太陽の地上天文予算 200 億円 / 年から約 30 億円 / 年を節約するプランを Senior Report としてまとめた。今後の予算の伸びが必ずしも期待できない中で、既存の施設の運営を続けながら新規計画を具体的に執行するマスタープランを策定する中で ELT や SKA への積極的参加は当面できないとの判断となった。このため TMT は Caltech, UC, Canada の三者で 2009 年度からのスタートが可能か再検討している。また、ハワイ大学は地元で最大限配慮したマスタープランの見直し案を発表した。

一方、OWL 構想の見直しを決めた欧州はこの一年間の検討結果を 42mE-ELT 構想としてまとめ直し、2016 年 FL に向けて、詳細設計に入ることを決めた。E-ELT は 3 非球面光学系に 2.5 m 平面可変鏡と 2.7 m T-T 鏡を組み込んだ 5 面望遠鏡光学系構想で、装置構想も野心的である。

日本の ELT 活動は将来を見据えたセグメント鏡の基礎開発を中心に行い、すばる望遠鏡の継続的運用との連携の可能性を探ってきた。その活動状況と、このように ELT 情勢が変動する中、今後の戦略構想についての検討状況を報告する。